

春祭り



毎月、黒目川の川掃除に燃えている「黒目川川づくり懇談会」ですが、この4月に初めて「すくそ新座春祭り」に参加しました。僕たちのテントは若い人達を中心に作られ「黒目川の魚たち」「ざりがに釣り」「投網教室」などで、300名以上の方たちに楽しんでいただき、大成功でした。上の写真は最初から最後まで頑張った若者達です。そして下の写真はザリガニに夢中になる子ども達。やっぱり子どもたちは生き物が好きなんですね。子ども達は水槽の魚たちにも熱い視線を送っていました。



読み聞かせ

次男の小学校では今月の23日から「朝の読み聞かせ」が始まりました。僕もお手伝いすることになりましたが、「ねぎぼうずのあさたろう」以外は殆ど読んだことがなく、絵本にはからきし自信がありません。でも、学校に出来るだけの協力をしたいと手を上げました。僕の初日は5月21日。今学期は4回読む予定です。それまでに猛練習して、子どもたちに「また読んでね!」と言われるようになりたいです。子どもたち全員の名前も早く覚えないと……

第4次基本構想総合振興計画

これからの10年を考えるのが「基本構想」です。昭和48年度～59年度までは「自然と人間の調和した住宅都市」、昭和60年度から平成12年度までは「自然と人間の調和した健康都市」、平成13年度から平成22年度までは「元気の出る人と自然が共生する快適環境都市」、そしてこの第4次基本構想では「連帯と協働で築く雑木林とせせらぎのある快適環境都市にいざ」がこれからの都市像であると、今回の審議会案ではなっています。今までの10年を考えてみれば、言葉だけで魂がこもっているとは思えません。「元気の出ない」ことばかりの10年間だったような気がする人も多いでしょう。あくまでも構想だから、どうでもいーや。と考える方もいるでしょう。しかし、この基本構想を盾にして不必要な開発が行われ、市民の血税がそれに注ぎ込まれるとしたら、黙っている訳にはいきません。この審議会案の中には地下鉄12号線を引き込むための市街化調整区域の開発が明示されています。「財政難」を理由に市民に痛み(負担増)を負わせてきた須田市政がここにきて新たな開発を目指しているのです。県の指導で土地開発公社の健全化計画が行われ、確かに市の借金は少し減りました。しかし、新座駅北口の区画整理(128億)や保谷・朝霞線(100億)そしてふるさと新座館(十数億)が同時進行していきそうな状態の中での市中央部、市街化区域の開発は無理に決まっています。市の経常収支比率は90%を超えています。そして税収は落ち込んでいるのです。それなのに、あれもこれもやろうとする須田市政。その全てに賛成する市長与党(政和会・刷新の会・公明党)の19人。このままでは新座市が潰れてしまう。そんな心配をするのは僕だけではないでしょう。市長与党は議会の前に「議案説明会」に参加し、市長提出議案には議会では反対できない。そういう仕組みがあります。市長与党だからこそプレーキをかけられるのに、それもできないのが今の新座市です。市議選までは2年を切りました。そして、市長選も2年後に迫ってきました。その選択権は市民のみなさんにあります。